

## 看護の現場より

看護学生のみなさんに、私たちが日々看護を  
実践している現場での奮闘ぶりや、看護に  
対する熱い思いをシリーズで紹介します。

### 学びを深め、 共に成長しあう

東神戸病院 コロナ病棟看護師  
高見 侑里さん



#### ■ はじめに

看護師資格を取得し、東神戸病院で働きだしてからもう4年目となりました。看護師として働き始めることに加え、コロナ禍による制限もあり、不安や緊張で押し潰されそうになりながら



患者さま・家族さまとのオンライン面会

の入職となりました。

当初は地域包括ケアであった病棟も国からの要請によりコロナ病棟へと変わり、新設した病棟で毎日試行錯誤しながら働いています。

#### ■ コロナ病棟について

COVID-19の感染拡大に伴い、東神戸病院も2021年9月よりコロナ病棟が新設されました。病床数は15床で構成され、主に軽症から中等症Ⅱまでの患者さまを対象に受け入れを行っています。

現在は患者さまの数は減りましたが、多い時は病床全てが埋まってしまいう事もありました。新設当初は手探りの中で患者さまを受け入れ、一からのマニュアル作り、防護服を着用しての患者さまの状態観察やケア、処置を行う事等に慣れていくまでが辛かったです。

また自分自身の防護服が正確に着用できているかの懸念や、レッドゾーンでの滞在時間が限られた中で患者さまの状態を把握する事へのプレッシャーもあり、常に緊張しながらの業務



隔離病棟でのレクリエーション

はとても疲労を感じました。

感染状況によって、病床稼働状態も急に増えるなど日々変化するので、その変化についていく事に身体的、精神的にも苦しい時もありました。しかし、今回のCOVID-19の対応を通して、感染の知識や技術、メンバーシップを学ぶ機会となり、自身の成長に繋がったと感じています。

## ■ 病棟での取り組み、 みんなで力を合わせて

誰か一人に負担が偏らないように、一人ひとりが声を掛け合いながら業務を行い、みんなと協働しながらつくりあげた病棟だと思います。



定期的に防護服の着脱チェックの実施

感染の波により患者層も変わり、認知症の患者さまやターミナル期にある患者さまの入院も増えてきました。そのため、その患者さまの対応や知識を深めるための学習会を行ったり、その都度みんなでお考え、話し合い、意見を出しあって困難にある時も無事に乗り越えられました。

そして、人員が不足した際に他病棟から看護師、リハビリスタッフ等が応援にきてくれました。また、他部署看護師等からの温かい声かけやカードでの応援メッセージは働く中での励みとなりました。

病院の職員全体との繋がりを実感し、みんなと共にこの病気と戦っているという事を強く意識しました。

## ■ おわりに

今後COVID-19がどのように収束していくのかは分かりませんが、病院で働くチームの一人として、自分が今できる事を一生懸命頑張っていきたいと思います。